

第63回卒業式挙行

271名の生徒が上田西高校から巣立つ



第121号
発行
2025年
4月18日(金)
上田西高等学校
新聞委員会
編集局
編集局長：塚田 礼
新聞委員長：大澤 理子
井上 さゆり
小林 ささき
斎藤 慈瑠心
斎藤 未侑
レイアウト：塚田 礼



感動の卒業生答辞 保護者への感謝や在校生へエール

上田西高校では3月1日(土)に第63回卒業証書授与式が挙行政され、271名の卒業生が慣れ親しんだ学び舎を巣立った。卒業証書授与式では卒業生全員が呼名に対して返事、起立をする形式が復活。令和6年度の行事は全て新型コロナウィルスによる制限なしで実施され、卒業生にとっても日常を取り戻した1年間になった。そんな卒業生の最後の行事である卒業式の様子を、卒業生を中心に取材した。

卒業式では代表の卒業生によりピアノの音色とともに答辞が読まれ、今年度は旧3年2組伊藤香さんと旧3年7組伊藤圭人さんがその役目を果たした。ピアノの演奏は、伊藤香さんは家族について、伊藤圭人は「楽しい時は自分のことのように喜んでくれたこと、落ち込んだ時は一緒に悩み、励ましてくれたこと。振り返ればどんな時も家族の支えがありました」と涙ながらに話した。感謝の気持ちをあらわにした。

また伊藤香さんは在校生に対して「青春は一瞬だから全力で1つのことをやり通すこと。もし壁が立ちましたら、必ず力を貸してくれる誰かがいます」と熱意ある励ましの言葉を送った。先生方や保護者、友人に感謝の言葉を伝える様子から多くの出席者が目に涙を浮かべ、式場全体が感動の雲雨に包まれた。

保護者代表挨拶を行ったのは3学年PTA会長を務めた林整さん。「あつという間の3年間だった」と振り返り「高校生活での経験を糧に成長していくことを切に思う。幸せだと思える毎日を過ごしてほしい」と述べた。

(塚田 礼)

呼名時の学年全体での起立が復活

卒業生答辞を読み、感極まる伊藤さん

今年度は卒業生271名が式に臨み、佐藤純也校長から卒業生を代表した旧3年6組の飛知和美さんに卒業証書が授与された。

代表者以外の生徒は例年、クラス担任に1人ずつ呼名され返事をするだけだが、今回は生徒が返事に加え起立した。3学年の主任を務めた山口裕恵先生は、呼名する際緊張したとしても「名前を間違えたり飛ばさないようにするために指を名簿において1人ひとり呼名した」と話した。また卒業生の返事と起立に

時も家族の支えがありました」と涙ながらに話した。感謝の気持ちをあらわにした。

また伊藤香さんは在校生に対して「青春は一瞬だから全力で1つのことをやり通すこと。もし壁が立ちましたら、必ず力を貸してくれる誰かがいます」と熱意ある励ましの言葉を送った。先生方や保護者、友人に感謝の言葉を伝える様子から多くの出席者が目に涙を浮かべ、式場全体が感動の雲雨に包まれた。

保護者代表挨拶を行ったのは3学年PTA会長を務めた林整さん。「あつという間の3年間だった」と振り返り「高校生活での経験を糧に成長していくことを切に思う。幸せだと思える毎日を過ごしてほしい」と述べた。

(塚田 礼)

卒業生、高校生活を振り返る

3年前上田西高校に入学した際取材を行った卒業生に卒業式後高校3年間の振り返りももらった。野球部に所属していた小山大翔さんは「2年生の時に甲子園に行ったことが部活動で一番の思い出。やっぱり上田西高校に来て良かった」と振り返り、春から続ける予定だという野球も「頑張りたい」と意気込んだ。

サッカー部に所属していた新津倉太さんは入学時に「サッカーを精一杯練習しAチームに上がれるよう努力し充実した3年間にしたい」と目標を掲げたが、それに対し「日常生活も部活動でも充実させることができ、楽しい日々も辛い日々もみんなと一緒に居たから楽しかった」と目標を達成した様子が伺えた。4月からは「夢に向けてまた勉強していきたい」と新たな目標を掲げた。

同じくサッカー部に所属した東風谷崇太さんは「つい最近入学したような体感で、毎日笑いが絶えず学校に行きたくなるような良いクラスに出会えて幸せだった。夢を追いかけるうえでみんなのサポートが力になった」と



卒業式後各教室で行われた最後のホームルームの様子



理事長表彰を受けた3年5組宮尾一花さん

令和6年度は、成績優秀者1名、サッカー部34名、レスリング部2名、書道部8名、生徒会5名そして全日本スノーボー

理事長表彰に51名

全国ベスト8のサッカー部ら

3年5組での生活を笑顔で振り返った。4月からは小学生の時から夢だという消防士になるべく「自分の夢、初志を貫徹し、最大限まで頑張りたい」と意を固めた。

それ以外の目標を掲げ、高校生活を過ごした卒業生。上田西高校での経験を活かし、4月から始まった新生活でも活躍を期待したい。

(塚田 礼)

宮尾一花さんは「とても光栄な賞を頂いた。文武両道が大変な3年間だったが充実した生活を送ることができた」と振り返った。

水野一成理事長は卒業生に向けて「3年間の思い出や努力は必ずこれからの人生での貴重な糧となる」と話した。表彰後は表彰者全員で「西高最高」と拳を上げ喜びを表した。

(斎藤 瑠心)



卒業した旧生徒会役員

予餞会 卒業生への感謝の気持ち表す 高校生活の思い出を振り返る企画やサプライズも

多数の団体が歌企画実施

在校生と卒業生が合唱を贈りあった。1、2年生は、ミセスグリーンアップルの『僕のこと』を披露、在校生企画を担当した生徒会役員は、「これから新しい環境になり不安もある3年生を後押し出来たらいいな」と思い企画したと話した。

また、指揮者を務めた旧2年2組湯田拓海さんは「合唱において大切な役割なのでみんなが歌いやすいように強弱をつけたり全体を使って表現したり工夫しながら取り組んだ」と語った。練習

卒業生、在校生共に合唱を贈り合う

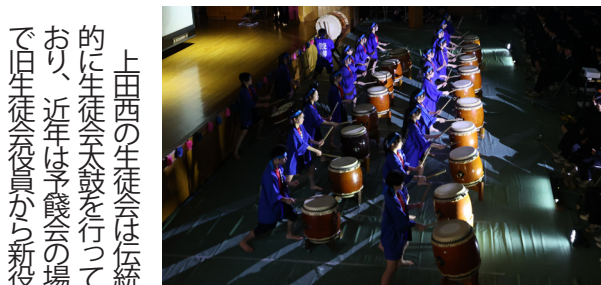
時声が出ていないことに不安を抱く場面もあったが、本番は全員が一ひとりと大きな声で歌い、練習の成果を十分に発揮した。



有志企画で歌を披露した野球部

有志企画では、野球部とサッカー部が卒業生に向けて歌を贈った。野球部はファンキーモンキーベイビーズの『ありがと』を選曲。渡辺源太郎主将は「生徒会や部活を引っ張ってきてくれた3年生に感謝の気持ちを伝えたい」と語り、歌う際に「3年生に感謝が伝わるように意識した」と強調し、感謝の思いを表現することに務めた。

一方、後輩達からは歌のプレゼントについて、野球部に所属していた旧3年5組小山さんは「心にくるものがあり、思わず目の裏から涙がこぼれ落ちた」と感動した様子だった。後輩達に対しては「自分たちの代は夢の舞台に行けなかったんで、チームみんなで切磋琢磨して甲子園に行っていきたい」と夢を追いつけることの大切さを感じさせる激励のメッセージを残した。



生徒会太鼓演奏の様子

上田西の生徒会では伝統的に生徒会太鼓を行っており、近年は予餞会の場で旧生徒会役員から新役員に引き継ぎのパフォーマンスが行われている。体育館には新旧生徒会役員の掛け声と迫力ある太鼓の音が響き渡り、全校を釘付けにした。

旧生徒会役員にとって、1年間演奏し続けた太鼓の最後の演奏機会であった。旧生徒会長の山下さんは「3年生の中にはつい最近まで受験をしていた人もいて、みんなで集まるのが大変だったけど、最後まで楽しく太鼓を叩くことができた」と振り返り、新生徒会役員

伝統の生徒会太鼓 今年も新旧役員がコラボ



ものまねアーティスト中村さんの登場で盛り上がる卒業生

サプライズ ものまねアーティスト中村さん登場

白尾先生は予餞会当日のパフォーマンスについて「予想以上の盛り上がりを見せ、反応も非常に良かった」と話し、「野球部、サッカー部が前に出てやってくれたけど、もう少し上手く出来れば」と反省を述べつつも「最

後のウルトラソウルの場面では特に盛り上がった」と喜んだ。また、旧生徒会長の山下智也さんも中村さんのパフォーマンスに感銘を受け、「歌も上手くてお話も上手で、目を瞶れば稲葉さんがいるみたいなきらびで、楽しいサプライズだった」と語った。白尾先生は最後に、「中村さんが言ったことを忘れずに頑張りたい」と卒業生にエールを送った。

今回のサプライズは白尾先生の熱い想いによるものだった。中村さんの訪問は予餞会を特別なものに、参加者全員にとって忘れられない思い出となった。

毎年恒例である抽選会と生徒会役員が考案した「〇×クイズ」がおこなわれた。抽選会は去年と同様に在校生が番号を引き、卒業生のクイズと名簿番号で当選者が決められた。景品にはお菓子やバスボムセットなどが並ぶなか、1等にはアイス二杯、アチケットが用意され盛り上がりを見せた。

〇×クイズは役員がクイズを考え、クラスを代表した卒業生がステージに上がりクラス対抗で優勝を目指した。結果は全問正解した5クラスでジャンケンをし、旧3年7組が優勝。旧3年7組の小林大哉さんは「優勝できると思っていなかったけど、7組のチーム力で優勝することができた」と喜んだ。

〇×クイズ担当の生徒会役員は「放送係とは台本通り連携は取れたが台本を読むところで少しグダってしまったことが悔やまれる」と企画を振り返った。

〇×クイズは役員がクイズを考え、クラスを代表した卒業生がステージに上がりクラス対抗で優勝を目指した。結果は全問正解した5クラスでジャンケンをし、旧3年7組が優勝。旧3年7組の小林大哉さんは「優勝できると思っていなかったけど、7組のチーム力で優勝することができた」と喜んだ。

〇×クイズは役員がクイズを考え、クラスを代表した卒業生がステージに上がりクラス対抗で優勝を目指した。結果は全問正解した5クラスでジャンケンをし、旧3年7組が優勝。旧3年7組の小林大哉さんは「優勝できると思っていなかったけど、7組のチーム力で優勝することができた」と喜んだ。

〇×クイズは役員がクイズを考え、クラスを代表した卒業生がステージに上がりクラス対抗で優勝を目指した。結果は全問正解した5クラスでジャンケンをし、旧3年7組が優勝。旧3年7組の小林大哉さんは「優勝できると思っていなかったけど、7組のチーム力で優勝することができた」と喜んだ。

〇×クイズは役員がクイズを考え、クラスを代表した卒業生がステージに上がりクラス対抗で優勝を目指した。結果は全問正解した5クラスでジャンケンをし、旧3年7組が優勝。旧3年7組の小林大哉さんは「優勝できると思っていなかったけど、7組のチーム力で優勝することができた」と喜んだ。



風船を用いたメイン企画の様子

2月28日（金）に予餞会が行われた。卒業生への饗として生徒会役員が中心になり様々な企画が行われた。当日は、ものまねアーティストの中村さんもサプライズ登場するなど、歌を中心とした企画が多く行われた。新生徒会役員初めての行事であった予餞会について、企画担当者や卒業生へ感謝を取材した。

想いが詰まったメイン企画

生徒会役員が考案したメイン企画には卒業生に最後に楽しい思い出を作ってもらいたいという想いが込められた。在校生から寄せられたメッセージを使用した制作したステージバックや風船を使った演出などを担当した旧2年6組の堀内

悠羽亜さんは「メッセージだけでなく垂れ幕の模造紙にも装飾をしてみよう」ということで遠くからでも華やかに魅せることができた。初めに作ったものでは風船が落ち切らず、何度も試行錯誤を重ねた。入退場時のライトアップされたアーチや風船など

を、愛する人」を歌った全校の声が体育館中に響いた。卒業生には終始笑顔が見られ、メイン企画は期待以上の成果をあげた。

旧生徒会長の山下さんは「演出などにこだわりが見られ、ステージバックに文化祭のテーマソングの歌詞が書かれていてすごかった」と予餞会を振り返った。そして、予餞会の最後には今年の文化祭テーマソングであった「愛する人」を歌った全校の声が体育館中に響いた。卒業生には終始笑顔が見られ、メイン企画は期待以上の成果をあげた。

新生徒会役員は披露直前まで不安な様子を見せていたものの、放課後や休日を使って役員同十助け合いながら熱心に練習をこなしその成果を大いに発揮した。